

『自助社会を終わらせる-新たな社会的包摂のための提言-』

宮本太郎編（岩波書店、2022年）

出版記念オンライン研究会

2022年12月10日(土) 13:00~15:30

(延長の場合も16時には終了予定)

【報告者】

山崎望（駒澤大学法学部・教授）

千田航（釧路公立大学経済学部・准教授）

川島佑介（茨城大学人文社会科学部・准教授）

【討論者】

宮本太郎（中央大学法学部・教授）

【司会および問い合わせ先】

加藤雅俊（立命館大学産業社会学部・准教授）

mkato@fc.ritsumei.ac.jp

開催形態: Zoomのミーティング

事前登録制

事前登録制(参加をご希望の方は、12月8日(木)の17時までに、以下のリンク先もしくはQRコード先からお申し込みください。研究会前日の13時頃までに、Zoomのミーティングルームのリンク先を送付します)。

<https://forms.office.com/r/fDmLkPiqTE>



経済危機、自然災害、地球環境問題、そしてパンデミックなど、現代社会は世界規模の危機に直面しており、現代に生きる私たちはリスクを共有する存在と言える。それにもかかわらず、現代社会（とくに、日本）は、自己責任論に代表されるような「自助」が重視された社会でもある。リスクを共有する存在により構成される社会において、なぜ自助は強調され、どのような課題が生み出されているのか。そして、この隘路はどのようにして乗り越えることが可能か。『自助社会を終わらせる-新たな社会的包摂のための提言-』は、これらの社会的にも学術的にも重要な問いに対して、多様な具体的な論点を取り上げ、「社会的包摂」をキーワードに、新たな社会のあり方を学際的に考察する好著である。

本オンライン研究会では、本書の著者のうち、政治学を専門とする山崎氏、千田氏、川島氏に担当章の内容をご紹介いただき、編者の宮本氏から総括的なコメントをいただく。その後、質疑応答に移り、登壇者および参加者と「社会的包摂の可能性と課題」を検討していきたい。

本研究会が、「社会的包摂」という新たなビジョンのもとに、自助社会を乗り越える手ごかりについて考える機会になれば幸いである。

【共催】

・立命館大学人文科学研究所・重点プログラム「グローバル化と地域の多様性 (diversity)」

・科学研究費・基盤研究 (B) 「「家族主義レジーム」の変容に関する国際比較研究-家族政策の多様化とその因果的背景」

(研究代表者: 加藤雅俊)